

令和3年度 京都府立農芸高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン） 実施段階

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 目指す教育 質実剛健の校訓のもと、高等学校における普通教育と農業に関する専門教育を施すことにより、社会人基礎力を養い、農業教育で培った知識・技術を活かし、生命の尊厳を尊び、農業の発展及び環境保全に貢献する意識と実行力を備えた、社会の発展に寄与する人材を育成する。</p> <p>2 目指す学校 京都府農業教育の唯一の専門高校として、地域や関係諸機関等に信頼される学校づくりを基本とし、 (1)社会から求められる人材を育成する学校 (2)農業や農業に関連する分野で活躍する職業人を育成する学校 (3)農業専門高校にふさわしい高度な専門性を追求する学校を目指す。</p> <p>3 目指す生徒 (1)夢と希望を持ち、自ら考え行動する生徒 「主体的に学び考える力」 (2)自他の生命を尊び、社会でつながる生徒 「多様な人とつながる力」 (3)質実剛健の気風を培い、挑戦し続ける生徒 「新たな価値を生み出す力」</p>		<p>1 成果 (1)新型コロナウイルス感染拡大防止対策とともに生徒の実態に応じた主体的・対話的で深い学びと基礎・基本の定着を軸とする学力向上と組織的な生活指導、寮教育ならびに積極的で計画的な進路指導により希望進路の実現に取組んだ。 (2)グローバルGAP継続認証や農芸マルシェをはじめ、農業専門高校としての特色ある活動を推進し、農業クラブ専門部活動と積極的な資格取得などにより生徒の達成感の醸成に取組んだ。 (3)新高等学校学習指導要領の趣旨と農業の6次産業化、スマート農業の導入、グローバル化を軸とする3学科8コース体制の学科改編を行い、1年生後半からのコース別専門学習及びACCESSを実践した。 (4)教育実践状況を積極的に広報するとともに、ICTを活用した保護者対象の学校アンケートを実施し、教育ニーズの受信に努め、教育活動に対する地域、保護者の理解の促進に取組んだ。</p> <p>2 課題 (1)生徒の適正な規範意識の醸成と自主的な学習習慣の定着によって、より高い目標を目指す、希望進路実現に自ら努力させ、社会的自立に向かわせること。 (2)地元地域や中学校との適切な連携や教育活動の発信によって、教育機関としての信頼を高め、募集定員を充足する志願者を確保すること。 (3)自主的、自律的な課外活動を推奨し、部活動、農業クラブ専門部のさらなる活発化と適切な指導により、規律ある生徒集団の形成を目指す取組を一層推進すること。 (4)大学・企業・関係機関と連携した専門性の高い研究や府農林水産部、地元行政機関の事業を活用した農業の担い手育成に関わる活動を継続すること。</p>	<p>1 学校経営主題 「新しい農芸への挑戦を加速化しよう・目指せ Next Stage!!」</p> <p>2 学校経営の重点事項 (1)主体的・対話的で深い学びの実践による基礎・基本の定着と学力の向上 ①主体的・対話的で深い学びを目指し、授業・実習におけるICTの積極的導入等指導方法の工夫・改善と基礎的・基本的な事項の確実な定着により、学力向上を目指す。 ②教科横断的な教科活動に取り組むことにより、学科のねらいやコースの目指す生徒像の実現に寄与するとともに、農業専門教育の活性化に資する。 ③授業改善のための生徒による授業アンケートを継続実施するとともに、各教科・学科・コースにおいて適切な評価基準を整備し、観点別評価による評価・評定を行う。 (2)農業専門高校としての特色ある活動の充実と生徒の自己肯定感の醸成 ①改編の趣旨である「6次産業化」、「スマート農業」、「グローバル化」を各コースの教育内容に組み入れ、最先端農業への挑戦を加速化させる。 ②京都府立大学生命環境学部との連携協定を具現化する取組を推進し、農業専門高校にふさわしい大学と連携した専門教育モデル構築に挑戦する。 ③農業クラブ活動における「プロジェクト研究活動」を計画的に実践し、意見発表、農業鑑定競技とともに、日本学校農業クラブ全国大会入賞を目指し、指導を行う。 (3)積極的なキャリア教育の実践による生徒の個性・能力に応じた進路実績の構築 ①3年間を見通した進路学習、インターンシップ等により、適正な勤労観と職業観を計画的に育成する。 ②地域、企業、大学等と連携し、外部人材を積極的に活用するなど将来の職業人としての高い倫理観と社会人基礎力を培う。 ③府農林水産部、関係機関との連携による各事業を継続・活用し、京都府の農業や関連産業の振興に寄与する将来の担い手育成に取り組む。 (4)人間性を育み、正しい判断力と適正な行動規範の定着 ①保護者の理解と関係機関との連携を軸に、全ての教育活動を通して生徒密着型・問題解決型の生活指導を組織的に推進する。 ②学校生活、寮生活をおとして適切な倫理観と行動規範を身につけさせ、自立心、協調性、責任感と道徳の実践力を育むなど全人的な教育活動を推進する。 (5)あらゆる教育活動とおした人権教育の推進と安心・安全の確保 ①新型コロナウイルスをはじめ感染症拡大防止に係る新しい行動様式・生活様式を守り、自他の人権と生命を大切に、良識ある公民として共生社会を主体的に生きる力を醸成する。 ②特別な支援を要する生徒の教育ニーズを適切に把握し、関係機関と適切に連携し、組織的な合理的配慮による特別支援教育を推進する。 ③全ての教育活動において事故等の未然防止とともに、安心・安全の確保に努める。 (6)信頼される開かれた学校づくりの推進 ①日頃の学習成果発表の場を数多く設定し、生徒の姿で教育実践を発信することにより、教育成果を広く府民に公開し、教育機関としての信頼を得る。 ②教育後援会、船南同窓会、PTAと一体となり、創立40周年記念事業実行委員会を立ち上げ、令和4年度末を事業完了の時期と定め、取組を進める。 ③新聞広報、南丹市CATVなどによる教育活動情報を積極的に発信と教育ニーズの受信に努めるとともに、中学校との適切な連携により定員を充足する志願者を確保する。</p>
<p>評価</p> <p>A 十分達成できている。(目標以上の成果が得られた)</p> <p>B ほぼ達成できている。(ほぼ目標どおりの成果が得られた。)</p> <p>C 達成できているとはいえない。(成果はあったが目標には達していない。)</p> <p>D ほとんど達成できていない。(ほとんど成果がなかった。)</p>			

分掌/教科名	評価領域(業務領域)	重点目標	具体的方策(実践項目)	評価	成果と課題	
管理職	組織運営	主体的・対話的で深い学びの実践による基礎・基本の定着と学力の向上	生徒による授業アンケートを授業改善に活かすとともに、適切な評価基準を整備し観点別評価による評価・評定を行う。教科横断的な教科活動やICTの積極的導入等により指導方法の工夫改善を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒授業アンケートを年間2回行い、生徒に自己の授業への取組を振り返らせるとともに、授業改善に活かせることができた。今後は観点別評価も踏まえ、授業改善により活かせるような取組となるよう改善が必要である。 ・学科改編の趣旨に沿った教育内容に各コースが取り組んでおり、施設設備の充実も図られ、地域・大学・企業と連携した取組も実施できた。今後は全てのコースが大学との連携協定を活かした取組が推進されるよう取り組む必要がある。 ・新聞やTV等による広報活動や小学生の校外学習を実施することで、生徒の姿を発信することができた。 ・志願者確保に向けた生徒募集活動をより充実させる必要がある。 ・来年度実施する創立40周年事業に向け実行委員会を立ち上げるとともに、各専門部会の取組を推進することができた。今後、実施に向けより関係団体と連携を図るとともに、校内の実施体制を整備していくことが必要である。 	
		農業専門高校としての特色ある活動の充実	学科改編の趣旨を各コースの教育内容に組み入れ、最先端農業への挑戦を加速化させるとともに、大学との連携協定を具現化する取組を推進し、農業専門高校にふさわしい大学と連携した専門教育モデル構築に挑戦する。	B		
		信頼される開かれた学校づくりの推進	教育実践、成果を生徒の姿で積極的に発信するとともに、志願者確保に向けた取組に努める。関係団体との連携を図り、創立40周年記念事業の取組を推進する。	B		
事務部	学習環境	就学支援金をはじめとする援護制度の周知徹底	その都度速やかに教室掲示プリントを配布し、案内もれがないようにする。該当者には期限内に書類が提出できるよう丁寧な対応、支援をする。学校預かり金延滞等も含めて担任と密に連携し、問題が生じた場合には早期に解決を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金や各種援護制度の周知については適切な時期に滞りなくできた。問い合わせについても丁寧に対応できた。提出書類の期限までの回収に苦慮するす場合があり引き続き担任等との連携が必要がある。 ・効果的な運営費節減対策がとれなかった。 ・産業教育デジタル化事業等で複数の大規模な設備や機器の導入が実現できた。 ・施設管理については不具合発生都度修繕を行ったが、老朽箇所の計画的な修繕に関しては必要最低限にとどまった。今後も優先順位をつけて確実に実施していく必要がある。 	
		学校予算の効率的な執行	学校運営費、実験実習費の枠にとらわれず学校運営に支障のないよう経費節減を行う。また、産業教育デジタル化事業や校内の老朽箇所の修繕等を計画的に進めていく。	B		
教務部	学習指導	効果的な教育活動ができる学習環境の整備	規律ある授業環境を整えるとともに、情報機器の整備や学校図書館・校務システム等の効果的な活用を推進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業等を通してICT機器の活用など授業に関する研修を深めることができたものの、基礎学力の定着やACCESSの効果的な指導方法については、さらなる検討が必要である。 ・新学習指導要領及びBOYDIについて研究チームを構成して実施に向けた環境整備や研修に取り組めた。ただし、効果的な実践に向けて検討すべき課題は残されており、引き続き準備を進める必要がある。 ・生徒募集活動においてホームページやオープンスクールなどを通した学校の情報発信に、動画など新しい要素を取り入れることが出来た。ただし、定員が未充足な状態は続いており、さらに組織的・戦略的な生徒募集活動や本校の魅力発信に取り組む必要がある。 	
		学科改編及び新学習指導要領に伴う学習と評価の改善	授業を通した基礎学力の定着や、学習意欲向上を目指したACCESSの効果的な指導方法を検討する。また、新学習指導要領及び観点別評価についての研究と準備を推進する。	C		
	情報発信	教育活動の魅力化と活発な情報発信	ホームページの更新など、本校の教育活動を広く発信する機会を整えるとともに、計画的なオープンスクールと中学校訪問を通して本校の魅力を中学生・関係者へ発信する。	B		
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	全教職員によるあらゆる教育活動を通した生活指導・人権教育を徹底するとともに、マナーを向上させることで規範意識と社会人基礎力を高める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や関係職員と情報を共有し、ひとり一人の学校生活の様子や家庭の状況など、生徒理解に努めている。加えて、生徒の話をじっくり聞くことで個に応じた寄り添った生徒指導を行っている。 ・本年度の問題事象は、生徒間暴力が4件発生した。これらの事象の起因は生徒間のコミュニケーション不足や人間関係のトラブルにある。今後、自尊感情や自己有用感を育む教育活動を広げ、トラブルの回避や生徒同士で問題を解決できる人間関係やスキルを構築する必要がある。 ・本年度は6月と10月のそれぞれ3週間、人権週間と人権旬間を実施し、生徒会と連携して人権意識を高める取り組みを継続している。 	
		いじめ等の問題行動の未然防止	生徒の実態把握に努め、生徒密着型・問題解決型の生活指導により問題行動の未然防止に努める。	B		
		生徒会活動・部活動の活性化	加入率、継続性を高め、達成感・充実感を得られる部活動・生徒会活動を展開する。	C		
進路指導部	進路指導	キャリア教育の推進	インターンシップの活性化や卒業生講話の実施	C	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、外部との接触や校外での活動が制限される中で、できるものに注力した。 ・一部オンライン参加にはなったが、1・2年生を対象とした南丹広域振興局との連携で地元企業による就職講演会の実施できた。 ・学習合宿は、教科を絞って、内容が充実したものとなった。 ・教員向けの勉強会を実施し、Classiの機能活用を活発にしようとしたが、定着せずに終わったものの、基本機能の活用は、昨年度よりも活発になってきた。 ・社会人基礎力のひとつである自己管理能力としての手帳活用は、限られた生徒のみの定着に終わった。費用対効果の面で、次年度は検討する余地がある。 	
		学力の向上	進学セミナー、基礎学力補習、学習合宿、一般常識を始めとした基礎学力を充実させる。	B		
		社会人基礎力の育成	日常の指導に加え、外部講師を活用して、マナーや職業観を身に付けさせる。また、手帳を活用して、社会人基礎力のひとつである自己管理能力を涵養する。	C		
		クラウドシステムの機能をさらに活用する。	生徒本人との連絡や資料の配布、保護者連携に生かす。	B		
健康安全管理部	健康安全教育	自分の身体に関心を持ち、健康を意識する生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断や検診の円滑な実施と、その結果をふまえた治療率の向上をはかる。 ・3年間の計画的な保健学習の内容と時期を検討し、取り組みの充実をはかる。 ・感染症拡大防止についての取り組みと啓発を行い、生徒一人一人への意識付けを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・(成果) ・感染症対策として、保健委員による放送や日々の検温、手指消毒やマスクの着用・換気などの啓発に取り組むことができた。 ・日々の清掃活動に加え、校内安全点検の回数を増やしたことで、安全と美化に対する意識付けを行った。 ・年4回の特別支援教育会議に加え、臨時的な会議を2回開催し、担任や外部機関、スクールカウンセラーと連携し発達に課題のある生徒に対応することができた。 ・コロナ禍の中、保健学習については延期が重なり思うようなスケジュールでの実施が難しかったり、規模を縮小して実施せざるを得なかったが、「薬物乱用防止教室」以外の学習は年度内に実施することができた。 ・(課題) ・一部の生徒に感染症予防の重要性を理解させるところまで至らなかったため、学年末に多くの感染者を出してしまった。 ・発達に大きく課題のある生徒へは、進路指導・学習指導・生活指導をどのように進めればよいか行き詰まりを感じる事が多く、支援員の先生への負担も大きかった。今後も同様の事象については計画的な対応を行う必要がある。 	
		特別支援教育	特別支援教育の充実をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育についての正しい理解と認識を深め、生徒の的確な把握に努める。 ・課題のある生徒に対して特別支援会議と連動しながら、定期的に特別支援コーディネーター連絡会議を開催する。 ・支援を要する生徒に合理的な配慮が施せるよう、スクールカウンセラーや専門機関とも連携する。 		B
		校内美化	よりよい学習環境の維持と向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な環境の維持のため、校内の安全点検を定期的に行う。 ・清掃活動の活性化や保健委員の積極的活用など、校内美化の啓発・改善に努める。 ・ゴミの分別の徹底など校内美化に対する意識向上をはかる。 		B

農場部	農場管理・運営	新学科に円滑に移行させる適切な農場運営	学科・事務部と連携し、必要な経費の確保に努め、より効果的な実験・実習を展開する。	B	B	<成果> ・農業機械等導入事業、デジタル化対応産業教育装置整備、京の担い手育成推進事業等を活用し、最先端農業を実践的に学ばせることができる環境が整いつつある。 ・府連大会や競技会にフルエントリーし、出場生徒のほとんどが入賞できた。農業クラブ全国大会では、農業鑑定競技会で出場8名中、4名が優秀賞に入賞できた。 ・複数のコースで、京都府立大学生命環境学部と連携した教育活動が展開できた。 ・国際水準GAP普及推進交付金を活用し、5年目となるGLOBAL G.A.P.継続認証を取得、トマトに加えメロンでの認証取得ができた。 <課題> ・コロナ禍でグローバル化に関する取組が実施できなかった。 ・府連大会等で多数入賞したものの、優秀がほとんどで、最優秀を獲得する指導が求められる。 ・令和4年度入学生から実施される観点別評価への対応、タブレット端末の活用などへの準備が十分とはいえない。
	農業クラブ活動	農業クラブ活動の活性化	各種発表会・競技会において、府連大会、全国大会での入賞を目指した指導を行う。	B		
	担い手育成	関係機関と連携した担い手育成の推進	京都府立大学生命環境学部との連携協定を具体化する取組みを推進する。	B		
			府立高校特色化事業や京都府関係機関各種事業を活用し、将来の地域農業の担い手を育成する。	B		
寮務部	寮教育寮運営	寮生活と学習を密着させ、学習習慣を定着することによって学力向上を図る。また、これによって自己有用感の高揚ならびに自己実現に向けて努力する態度を育成する。	学習時間を活用し、学習習慣の定着を図るとともに、学習に対する主体性を育成する。	B	B	・1寮生に対し、平常の学習時間については、教科と連携し計画的に課題に取り組みせ、学習習慣の定着につなげることができた。また、考査期間中の学習時間を設定し、担任と連携した指導を行うことで、考査対策にも寄与した。 ・月毎の寮面談では、生活の状況、人間関係、進路への取り組みなどを聞き取り、問題事象については関係分掌と連携して対応できた。また、寮生集会を定期的に開催し、寮教育の基本方針である「自律・協働・責任・友愛」について寮生活での具体的事例につなげて理解を促した。ただし、すべての生徒に対し、効果的であったとは言えなかった。 ・1寮生に対し、生活規律の早期定着を目指し、舎監との連携の元で継続的な指導を行い、達成することができた。また、各種役割についての報告や連絡、相談などを徹底させ、帰省用紙や外出許可証なども利用し、行動責任と事前周知の必要性について自覚させることができた。
		寮面談や日常でのコミュニケーションを通じて生徒の悩みに耳を傾け、個々の生徒の実態を把握し、共に考えることで人としての生き方や在り方を深く考えさせ、精神的な成長を促す。	寮面談や日常でのコミュニケーションを通じて生徒の悩みに耳を傾け、個々の生徒の実態を把握し、共に考えることで人としての生き方や在り方を深く考えさせ、精神的な成長を促す。	B		
		厳しくも暖かく、きめ細やかな生活指導により、社会人としてふさわしい生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。	自発的なあいさつと生活規則の遵守を定着させることで規範意識の確立を図り、社会性を身につけさせて、社会人基礎力を育成する。また、寮生集会や寮行事を通じて寮生の結束と農芸高校への帰属意識を高める。	B		
第1学年部	指導方針	生徒に適正な規範意識を持たせ、教科担当者が授業をしやすい雰囲気を作る。	適正な規範意識を持たせるために、SHRやLHRで丁寧な挨拶や礼儀作法を常に心がけるとともに、学年全体で意識させる。すべての教育活動で人権意識や規範意識の醸成を図るために、生徒一人一人の言動や行動についてのアンテナを高く持つ。	C	B	・一部の科目で授業中の規範意識が低い場面があると教科担当者から連絡があった。適宜SHRやLHRで声かけを行っているが、根本的な解決にはまだ至っていないので継続的な指導が必要と考える。 ・一部の生徒であるが第2希望のコースを選択せざるを得なかった生徒がいる。10月のコース授業スタート後も学年団として日々のコースの授業や普通教科のことについて担任と生徒が話しやすい環境を心がけた。 ・毎週帰省用紙の確認を行い、必要に応じてすみやかに保護者連絡を行う事ができた。また、学年通信を1年間で9号まで発行することができ、農芸高校の一年生の活動を保護者に伝えることができた。 ・学校行事の関係で十分な7限目を実施することができなかったが、生徒個人個人が勉強しようとする雰囲気作りができた。教科担当者会議では担任と教科担当者で情報共有および相談ができ、必要に応じて三者面談や個別対応することができた。
		10月からの適切なコース選択ができるように、他の分掌・各コースと密な連携をする。	農芸高校の要である、コース選択を適切に行うために個人面談や生徒対象アンケート、日々の会話から生徒の希望コースを積極的に確認し、意図しないコース選択が生じないようにする。	B		
		保護者との連携を密にし、進路指導面や生徒指導面で理解を得る。	保護者との連携を密にするために、男子は帰省用紙および女子は週末帰省用紙を確認し、必要に応じて保護者連絡を行う。また、生徒が活動している様子を積極的に発信するためにあらゆるツールを効果的に活用する。	B		
		自主的な学習習慣の定着を目指す。	中学校までに十分な学習習慣が定着していないことが予想されるため、考査前に7限目を実施し、学習する癖付けを行う。各学期に教科担当者会議を実施し、教科横断的な情報共有を行い、不振科目の早期発見に努める。	B		
第2学年部	指導方針	各分掌間連携を密に行い、基本的な生活習慣及び社会人基礎力の定着を図る。	各コース・生徒指導部・寮務部などと生徒情報を共有し、生徒の指導における初動対応を迅速に行い、保護者とも協力して生徒の現状把握と進路を見据えた指導を行う。	B	B	(成果) ・課題を抱えた生徒が多い状況ではあるものの、生徒指導部・寮務部と連携して初動対応に注力し、大半の生徒が落ち着いて学習を受けることができるようになった。 ・進路学習では、進路指導部と連携してクラッシーを活用したり、進路講演会やLHRでの担任による講話などで生徒の進路意識が向上した。 ・旅行会社との打ち合わせを重ね、新型コロナウイルス対応の中、南九州における修学旅行を無事に実施することができた。 (課題) ・未だなかなか学校生活を落ち着いて過ごすことができない生徒がおり、また進級が危ぶまれる生徒や進路変更予定者を複数名抱えている状況にあること。 ・進路意識がまだまだ低い生徒も多く、進学・就職を問わず各種試験に対応できる基礎スキルの定着を図っていく必要があること。
		生徒指導案件の未然防止と、質の高い学習空間の提供を図る。	生徒が安心して進路に向けての取り組みや資格取得にチャレンジできる雰囲気作りのために、真面目に取り組むことの意義や授業の重要性などについて、適切なタイミングで啓発のための訓話を行う。	C		
		自らの進路意識を育み、地道な努力を継続的に続ける力を身に付けさせる。	各コース・進路指導部・担任サイドから、その生徒の目的や適性に応じた進路指導を早い段階から行っていく。また公務員志望者や大学指定校に必要な評定の話など、面談を通して見通しを持った進路選択を早期に提案していく。	B		
第3学年部	指導方針	社会から求められる人物の育成を目指す。	自主的な学習習慣の定着を図りつつ、『あいさつ・時間厳守・清掃の徹底』や『行動にメリハリをつける』、さらには『思いを言葉で伝える』など、社会人として当たり前のことを当たり前に行える人間へと成長を促す	B	B	(成果) ・あいさつやマナーについては、1年時・2年時と比べると生徒たちの意識は変わったと感じている。 ・生徒の希望進路実現に向けて、保護者とはこまめに連絡をとることができ、概ね満足いく進路指導ができた。 ・各種学校行事が中止や延期となる中で、最上学年としての自覚は感じられた。部活動や寮生活においても下級生の見本となる姿を多くの生徒がみせてくれた。 (課題) ・生活指導や進路指導に応じやすい生徒、応じにくい生徒がおり、指導の難しさを感じた。他分掌とは連携を図ったが、さらに組織的に生徒への指導にあたることでできるとよりよい集団になると感じた。 ・学年行事や機会がもたあってもよかった。特に、修学旅行の代替行事を実施できなかったことは心残りである。
		保護者との連携した、生徒の満足度が高い進路指導を実践する。	自分の将来について、より高い志や目標を持たせ、生徒が希望する進路実現にむけて、保護者との連携を図り、適切な進路指導を進めていく。	B		
		人間性を育み、正しい判断力と適正な行動規範の定着を目指す。	体育祭、農芸祭等の学校行事、各コースでの取組み、部活動などを通じて、社会人基礎力を身につけ、集団・個人としての自律・自立をはかる。	C		

学校運営協議会による評価	<p>○本校教育、農業専門教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度導入される一人一台タブレット(BYOD)について補助制度はあるのか。→機器購入に際し補助金があり、貸与制度もある。また、保護者負担の軽減を図るため、修学旅行を2泊に減らし北九州方面へ変更した。 ○府立大との連携について ・今後も魅力的になるよう他県の状況を参考に高大連携を進めることが大切 ・大学進学を目指し、英語等の学力強化が図れるカリキュラム作りが必要とされる ・農林水産部、府立大、農大校とタッグを組み、新しい農業の在り方を追求していかなければならない。 ○学校生活について ・バス停前の道路で座り込んでバス待ちする生徒がいるので、注意と工夫が必要 ・今年度の協議会の動きとして、登校時にあいさつ運動に出るなどの授業時間外での生徒との交流が図れないか。 ・女子生徒の下宿先について 	<p>○生徒募集について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校紹介は中学生段階では遅いのではないかと。生徒募集のターゲットを小学生に下げるともよいのではないかと。 ・小学生位に物事に對する関心が育まれるので、英語教育が導入されたのと同じように、農業体験を取り入れられるとよいのではないかと。 ・小学生に農業の魅力を伝えられるようなコラボした取組が必要 ・り漢少年自然の家で合宿等する前に本校へ寄ってもらい、実習の様子を見せるなどの宿泊体験コースにできないか。 ・府立高校在り方懇談会委員の視察があり、学校の様子を懇談会で報告されていた。学校としては地域に根ざした府の農業教育中核校として、寮教育とともに特色を打ち出すことが大切であると考えている。 ・中学生の大学進学希望者は附属校や指定校の多い私学へ希望する傾向がある。子の数も少ないため経済的にも入学可能で、口丹地域は市内に近い。 ・学びのツールとして農業に触れることで、その後、関連でなくても希望どおりの就職・進学が果たせるような、多様な進路に対応できる学校としたい。 ・私学のオープンスクールでは、学校担当者が中学生個々に名刺を渡し(携帯番号も伝える)個別対応している。それにより、「これだけしてもらったら行かない」と入学後はあの先生を頼りにできる」といった安心感を与えるなど、来た子は逃がさないといった対応を行っている。 ・寮生活を心配している中学生保護者もいるため、PTA役員等の経験者が対話する機会をもてば、不安要素を和らげるのではないかと。 ・体験学習に来た小学生には必ずアンケートを行い、「入学を希望しますか」と問いかけておくことで、選択肢の一つとしてその後に向けて意識付けをしておくことが大切である。 	<p>○保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経年比較も大切だが、現状に合わせた項目、評価してほしいことに特化したアンケート内容に見直すのがよいのではないかと。 ・評価が下がった要因として教員の事象も考えられるが、コロナ禍で授業参観等の行事がなく、学校の様子が分からないことにより「分からない」と回答した保護者が多いこともあり評価が下がったとも考えられる。 ・保護者アンケートにおいて「わからない」と回答した割合が高く感じる。特に項目13、14、21(事故対応、いじめ防止、PTA・地域連携)は周知しやすい項目であるが、理解されていない。 上記について、高校生になると学校の様子を話さなくなり、加えて寮生は帰省日だけなので情報が得られにくいのが一因としてある。しかし、保護者メールやClassiによる配信により、配布物や連絡事項が分かりやすくなっている。 ・相対的な評価は良好である。今後、課題であることどのように取り組んでいくかといった改善策が大切である。 ○教員の事象について ・ネットニュースは早く、真実は何か正しく判断することが大切だが、生徒達は被害者を特定しないようみんなで注意し合っていた。そういう姿勢は生徒をそのようにこれまで育成してきた成果である。 ・教員を信頼していた生徒もいる。今後も生徒の様子を注視し、信頼回復に向けて努めていく必要がある。 ○その他 ・学校の取組が新聞記事等で多く紹介されているが、京都新聞は市内版に掲載されればよいのだが。また、最近は新聞購読しない家庭が増えている。
--------------	---	--	--

次年度に向けた改善の方向性	<p>[管理職]</p> <p>(1)新学習指導要領への円滑な移行と観点別評価・BYODの取組を推進することで、授業改善を図り、生徒の学力向上に努める。(2)府立大学等の関連大学や企業・地域との連携を促進し、学科改編の趣旨であるACCESSの理念を定着させる。(3)あらゆる教育活動を通してキャリア教育をより実践し、希望進路の実現を図るとともに、人権意識を高揚させる。(4)生徒募集活動の充実と40周年事業実施体制の整備</p> <p>[事務部]</p> <p>(1)奨学金や各種支援制度また次年度からは学習端末についての補助等様々な制度があるため、その内容について理解しやすいようきめ細やかな対応を心掛ける。(2)学校運営費がさらに厳しくなる中でも、教育活動を主に考え効率的な予算執行に努める。</p> <p>[教務部]</p> <p>(1)観点別評価やBYODについて、課題点や改善策を共有し本校にとって効果的な運用方法を検討する。(2)学校行事や教科指導など全ての教育活動において、ACCESSを踏まえた組織的な指導方法の検討を進める。(3)規律を保ち、安心できる授業環境の整備に取り組む。(4)学校関係者だけでなく、地域や中学生に向けた教育活動の情報発信について、より効果的な方法で実施する。(5)安定した校内情報管理システムを整備するとともに、活用しやすいICT機器の配備を行う。</p>	<p>[生徒指導部]</p> <p>(1)生徒の規範意識の高揚、マナー指導 (2)生徒の特性を理解した効果的な指導方法の模索 (3)安全運転意識の向上と交通安全教室の継続 (4)部活動の活性化と生徒が主体的に活動する生徒会の行事計画</p> <p>[進路指導部]</p> <p>(1)LHRや寮の学習時間を活用して、文章検定テキスト等の文章作成・読解等リテラシー能力の向上を目指し、希望進路実現に向けた成長実感の幅を広げていきたい。(2)現在多欠の生徒や、進路変更を前提としている生徒、また休学中の生徒など、一人一人を最後までサポートすることで、次の環境にスムーズにつないでいきたい。</p> <p>[保健部]</p> <p>(1)自分の身体に関心を持ち、健康を意識させるため、個別の声かけを強化する。(2)校内施設を教職員・生徒の両方の目で確認する機会を増やし、校内安全をいっそう充実させる。(3)特別な支援を要する生徒に対して、適切な時期に適切な支援を行える体制作りと関係各所との情報共有・連携を密に行う。</p> <p>[農場部]</p> <p>(1)事務部と連携し、引き続き実験実習費の確保に努める。(2)府連大会のフルエントリーを継続し、最優秀を獲得する指導を行う。(3)農業鑑定競技では農業クラブ全国大会で入賞できる指導を行う。(4)観点別評価を含んだ評価表の作成、農業科目におけるタブレット端末の具体的な活用方法を研究する。</p>	<p>[寮務部]</p> <p>(1)新型コロナウイルスの感染対策の徹底 (2)学習時間回復のための日課の調整 (3)老朽化施設設備の計画的改修や更新と継続的な要望提出 (4)食事の改善 (5)寮行事の引継ぎやマニュアル化</p> <p>[第1学年部]</p> <p>(1)日々の生徒と向き合う中で、教科担当者が授業しやすい雰囲気作りを行う。(2)来年度以降についても基礎学力の定着のために7限目を実施する。</p> <p>[第2学年部]</p> <p>(1)LHRや寮の学習時間を活用して、文章検定テキスト等の文章作成・読解等リテラシー能力の向上を目指し、希望進路実現に向けた成長実感の幅を広げていきたい。(2)現在多欠の生徒や、進路変更を前提としている生徒、また休学中の生徒など、一人一人を最後までサポートすることで、次の環境にスムーズにつないでいきたい。</p> <p>[第3学年部]</p> <p>(1)保護者との密な連絡は生徒指導、進路指導において非常に有効であった。(2)生徒が他者を尊重し、落ち着いて学校生活を送れるようなHR運営が必要と感じた。(3)府立大禍を念頭において、年間を通した計画的なLHR運営が必要と感じた。</p> <p>[人権教育]</p> <p>(1)教科担当者やコース等と連携したあらゆる教育活動を通して人権教育の推進 (2)教職員の人権意識の高揚や人権学習に活かすための効果的な研修会の実施 (3)府高入研や地域との連携による研修内容を本校の人権教育へ活用する。(4)府教育委員会「人権学習実践事例集<高等学校編Ⅱ>」完成に向けた取組と作成</p>
---------------	---	---	---